

小川町総合福祉センター集約再整備基本設計・実施設計にかかる設計と条件

1 目的

小川町（以下、「本町」という。）では、昭和 40 年代から高度経済成長と住宅団地の開発による人口増、行政需要の拡大などを背景に多くの公共施設の老朽化が顕在化し、近い将来に多くの施設が改修・更新の時期を迎えることとなり、多額の維持管理、更新費用が必要になると見込まれています。

また、人口減少に伴う税収の減少、少子高齢化の進展に伴う扶助費等義務的経費の増加が見込まれる中で、町民福祉に必要な公共施設の維持管理費が課題となっており、人口規模に見合う施設総量の適正化の推進が必要です。

平成 10 年 4 月に高齢者及び障害者の自立の促進及び健康の増進と児童の健全育成を図るとともに、町民の相互交流と福祉の向上を目的に設置された、小川町総合福祉センター（以下、「パトリアおがわ」という。）は、設備の老朽化により多額の維持管理費が生じていました。町民ニーズや費用対効果の面から、設備故障を契機に風呂・プールの営業及び交流室の利用を休止し、また空調設備の故障のためホールを含む貸館事業を休止してきました。

こうした状況を踏まえ、小川町総合福祉センター集約再整備基本設計・実施設計では、パトリアおがわへ他の老朽化した町の他の公共施設を複合・集約化することで、厳しい町の財政状況でも町民福祉に必要な公共施設の維持とパトリアおがわの高度利用を図り、持続可能な公共サービスを実現するために集約再整備を行うものであります。

2 施設の概要

資料 1 「施設カルテ」参照

3 事業予定（工期）

- (1) 基本設計・実施設計 契約締結日～令和 9 年 9 月 30 日
(基本設計：契約締結日から令和 8 年 10 月 30 日)
(実施設計：基本設計完了後から令和 9 年 9 月 30 日まで)
- (2) 改修工事 令和 10 年 1 月～令和 11 年 3 月

4 工事費

予定建設費 650,000,000 円以内

5 改修（修繕を含む）対象予定

- ① 設備（設備表参照）
- ② 空調（冷暖房設備）設備及び電源設置
セントラル方式とパッケージ方式の併用型（現状は小川町総合福祉センター集約再整備基本構想・基本計画 「令和6・7年度の各階空調導入状況P25」を参照）
- ③ 内装改修により新設・増設・改修が必要となる場合がある設備
消防設備（居室の変更による）・高圧受変電設備（改修状況により増設）
ガス給湯設備（館内全域に給湯を行う場合）
- ④ その他
バリアフリースイールの増設化等

設備表

	仕様	備考
電気	需要設備容量(700kVA) 受電線圧 (6600V)	継続使用可（容量増加・キュービクルの増設も検討）
ガス	集中プロパンガス	継続使用可（現在未使用状態。容量増加・都市ガスへの変更も検討）
水道	受水槽（48m ³ ×2槽）	継続使用可
排水	浄化槽（572人槽）	継続使用可
消防用設備	消火器具、屋内消火栓設備、配線、自動火災報知設備、非常警報器具及び設備、誘導灯及び誘導標式、非常電源設備、消防通報火災警報設備、ガス漏れ火災警報設備、防排煙制御設備	継続使用可 ※居室の改修に伴い消防設備を改修
空調	セントラル方式	継続使用不可（故障中）
	パッケージ方式	一部居室に導入 導入済居室継続使用可、追加導入
トイレ	水洗	一部バリアフリー化済 オストメイト無し
エレベーター	乗用（定員11人）	継続使用可

6 内装（小川町総合福祉センター集約再整備基本構想・基本計画「改修後の配置イメージ P53」参照）

① 事務・相談機能

長生き支援課事務スペース及び社会福祉協議会事務スペースで構成され、

現在の機能は維持する仕様とする。また、現在の2階の事務スペースを1階に移す事で利用者の利便性向上に繋げる。

② 健康増進・フレイル予防機能

機能回復訓練室の機能は維持し、プールエリアをフレイル予防機能に転換することでふれあいプラザおがわの機能を集約する。

③ 貸館機能

現在の貸館機能に加え一部の居室を改修することにより新たな貸館のスペースを設けることにより集約対象の大河公民館、ふれあいプラザおがわの貸館機能を維持する。

④ ホール機能

空調設備の更新を行うことにより現在の機能を維持する。

⑤ 児童館・交流機能

現在の機能を維持する。提案の中で変更する場合は理由を記載する。

7 留意事項

今後20年間の機能維持を目標に、イニシャルコスト縮減を図った設計とすること。また、ランニングコストの低減に配慮した設計とすること。

【参考資料】

小川町総合福祉センター集約再整備基本構想・基本計画

小川町総合福祉センター配置図・平面図・立面図・断面図等の図面一式